

科 目 名	作業療法評価学【作業】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	田 平 隆 行・植 田 友 貴						
開 講 年 次	2	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必 修（作業）
授業の概要 及びねらい	作業療法において「評価」は治療・援助とならぶ重要な過程です。対象者の身心機能と身体構造に関する情報を得るために必要な作業療法評価の項目、目的、方法について説明します。さらに、初期評価が行えるよう、対象者に関する情報を収集・整理し、次に情報を分析・解釈することで問題点を明らかにして作業療法での対応課題を導きます。						
授 業 の 到達目標	1）作業療法評価の目的を説明できる。 2）評価の過程を説明できる。 3）作業療法評価の枠組みと各枠組み内の評価項目（対象）と手段を理解できる。 4）対象者の心身機能と身体構造の評価項目と目的および手段を関連づけて説明できる。 5）症例を通してその対象者に必要な評価項目を選択することができる。 6）症例を通して評価スケジュールを作成できる。 7）症例を通して評価結果から対象者の肯定的側面（利点）と否定的側面（問題点）を整理できる。 8）症例を通して作業療法の対応課題の意味を理解できる。 9）症例を通して作業療法評価の目的と評価項目および手段を説明できる。 10）症例を通して作業療法評価の過程を説明できる。 11）症例を通して作業療法の治療計画の意味を理解できる。						
学 習 方 法	講義。必要に応じて演習を行なう。						
テキスト及び 参考書等	テキスト：作業療法評価学 第2版 岩崎テル子 他編 医学書院・ベッドサイドの神経の診かた 第17巻 田崎義昭 他 参考書：運動学、解剖学など作業療法評価に必要な教科書一式						
評 価 基 準 ・ 方 法	到達目標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	○					50
小テスト等	◎						20
宿題・授業外レポート	◎	○		○			10
授業態度				◎			10
受講者の発表				◎			5
授業への参加度							5
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
前 期	第1週	オリエンテーション 作業療法評価の目的：活動と心身機能との関係					
	第2週	作業療法評価の過程および作業療法評価の枠組み					
	第3週	全身状態の評価項目と目的および手段①					
	第4週	全身状態の評価項目と目的および手段②					
	第5週	感覚・知覚機能の評価項目と目的および手段①					
	第6週	感覚・知覚機能の評価項目と目的および手段②					
	第7週	反射・反応の評価項目と目的および手段①					
	第8週	反射・反応の評価項目と目的および手段②					
	第9週	姿勢反射・筋緊張の評価項目と目的及び手段①					
	第10週	姿勢反射・筋緊張の評価項目と目的及び手段②					
	第11週	協調性検査の評価項目と目的及び手段①					
	第12週	協調性検査の評価項目と目的及び手段②					
	第13週	形態計測の評価項目と目的および手段①					
	第14週	形態計測の評価項目と目的および手段②					
	第15週	まとめ					
	第16週						
後 期	第1週	脳神経系の評価項目と目的および手段①					
	第2週	脳神経系の評価項目と目的および手段②					
	第3週	運動機能の評価項目と目的および手段①（片麻痺機能評価を含む）					
	第4週	運動機能の評価項目と目的および手段②（片麻痺機能評価を含む）					
	第5週	ADL 評価の目的と手段①					
	第6週	ADL 評価の目的と手段②					
	第7週	摂食・嚥下の評価項目と目的および手段①					
	第8週	摂食・嚥下の評価項目と目的および手段②					
	第9週	自律神経系機能・その他の評価項目と目的および手段					
	第10週	上肢機能の評価項目と目的および手段					
	第11週	記録・報告の意義と特徴					
	第12週	グループワーク					
	第13週	グループ発表					
	第14週	評価のまとめと問題点の抽出					
	第15週	まとめ					
	第16週						
備 考	実技は場合によっては相手をケガさせる恐れもあるため、真剣に取り組んで欲しい。他の学生に迷惑になる言動や行動をする者は受講を断ることもあり得る。服装は実習着及び実習靴を着用すること。作業療法評価学と作業療法評価学は互いに連携した講義を行うため、必ず双方を受講すること。 授業外学習の指示：事前に講義範囲を提示するので、各自で予習してから受講すること。						